

区分	棟数(棟)	構成比(%)	世帯数(世帯)	構成比(%)	人口(人)	構成比(%)
全壊	4,722	30.6	7,737	22.2	18,050	20.6
半壊	4,062	26.4	9,928	28.5	26,790	30.5
一部損壊	4,786	31.0	14,564	41.8	37,365	42.5
その他	1,851	12.0	2,600	7.5	5,598	6.4
合計	15,421	100.0	34,829	100.0	87,803	100.0

3 火災の被害

本市では、震災当日の17日から3日間に発生した火災を地震に起因した火災と取扱っている。3日間で13件の

火災が発生、いずれも建物火災であった。

月日	項目	発生件数	焼損棟数	焼損程度(棟)			り災害程度		死傷者数(人)		
				全焼	半焼	部分焼	ぼや	世帯数	人員(人)	死者	負傷者
1月	17日	9	14	7	1	3	3	44	99	5	1
	18日	2	6	3		3		5	17	0	0
	19日	2	3	1		1	1	2	7	0	0
	合計	13	23	11	1	7	4	51	123	5	1

4 ライフラインの被害

(1) 水道

市街地全域の配水管、給水管が破損し、発災直後の午前9時頃から断水状態となった。2月28日に、倒壊家屋に起因する通水不能を除き応急復旧(復旧率96%)し、7月1日に完了した。

(2) 電力

発災直後に43,00軒が停電したが、18日14時00分には95%が復旧、22日の23時00分に市内全域が復旧となった。

(3) ガス

地震発生直後に、各所でガス管破損によりガス漏れが発生、ガス供給が停止されたが、4月10日にほぼ復旧作業が完了した。

(4) 電信電話

市内をカバーする交換機には異常はなかったものの、ケーブル、電柱、管路などが被害を受け、故障していない回線についても通常の50倍もの通話が集中し、通話困難な状況となった。

1月30日には正常どおりの機能に回復した。

5 鉄道の被害

本市と大阪・神戸間を結ぶ鉄道機関としてJR神戸線、阪急電鉄神戸線、阪神電鉄本線の3線があるが、いずれも地震被害を受け不通となり、市民生活と職員の通勤の足が奪われ、初動体制確立の支障の一つとなった。

不通期間の長期化に対して、鉄道各社は、1月23日か

ら神戸～西宮間で代替バス運行を行ったが、交通停滞が激しく、通勤、物資搬送等には相当の時間を要した。

市内の鉄道不通期間は、4月7日の阪急電鉄線の開通により解消されたが、大阪～神戸間の全線開通は、6月16日まで待たざるを得なかった。

6 道路の被害

阪神間の道路交通の大動脈である「阪神高速道路神戸線」が、本市と隣接する神戸市境で約500mに渡って高架橋が倒壊したため、車両は残る主要幹線道路の国道2号と阪神高速道路下の国道43号に集中、国道43号は、高架橋倒壊により通行可能車線は西行き1車線のみが辛うじて通行できる状態で緊急車両の通行にまで障害をきたす交通渋滞が続いた。また、県道、市道についても大きな被害が発生し、市道については、市道総延長182kmのうち、約26%に当たる概ね47kmに被害を受け通行に大きな支障が生じた。

7 公共施設の被害

(1) 市庁舎

市庁舎は、南館、北館、分庁舎の3棟(延床面積18,542.41㎡)で、いずれの棟も今回の地震により被害を受けたが、南館及び分庁舎は、構造的損傷も軽微で、庁舎機能を維持することができた。

しかし、北館(RC造:地上4階、地下1階、延床面積5,262.23㎡)は、余震により変形等が進行し、調査の